



自公76 民主17

参院選

「ねじれ

解消

昨年12月の第2次安倍晋三内閣発足後、初の大型国政選挙となる第23回参院選は21日投票され、即日開票された。改選121議席のうち自民、公明両党は計76議席を獲得し、非改選59議席と合わせて参院の過半数(122議席)を確保、衆参両院で多数派が異なる「ねじれ国会」が解消した。民主党は平成10年

の結党以来最低だった13年参院選の26議席を下回り、17議席に終わった。首相の長期政権の基盤は強まる一方、野党は分裂、再編の動きが加速する可能性がある。

自民党は31の「1人区」のうち岩手、沖縄以外の29選挙区を制するなど、比例代表の議席を含めて65議席を獲得した。公明党は候補者を擁立した全4選挙区と比例を合わせ、改選を1議席上回る11議席を確保した。自公は全ての常任委員長ポストを独占できる「安定多数」に必要な70議席以上を押さえた。

民主党は候補者を擁立した19の1人区で全敗したほか、改選数2以上の「複数区」でも軒並み苦戦し、壊滅的敗北を喫した。同党の海江田万里代表は21日夜の民放テレビ番組で、自身の進退について「まだ道半ばだ。努力をさらに続けたい」と述べ、続投に意欲を示した。ただ細野豪志幹事長は同夜の民放テレビ番組で「選挙の全ての責任は幹事長の私にある」と語り、辞任する意向を示唆した。

みんなの党と日本維新の会はともに8議席。共産党は東京、京都、大阪の3選挙区で議席を獲得し、13年以来、12年ぶりに選挙区での議席を復活させた。東京選挙区では「脱原発」活動を続ける俳優の山本太郎氏(無所属)が初当選した。共同通信社の集計によると、投票率(選挙区)は52・61%。前回22年参院選の57・92%を5・31ポイント下回った。



衆参のねじれの解消が決まり、笑顔でインタビューに応じる安倍晋三首相
—21日午後10時8分、東京・永田町の自民党本部(鈴木健児撮影)

